



草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

七八

門名
第 11
卷 4



東京道後山王記卷之七目錄

行宮 十八所

蓮心山神社

子業陵址

相法

南谷

智光寺跡

四竹廬

空室寺址

高世寺

大室寺址

北谷

小嶽

伊頂山

北原樓址

戒壇院

有智山

湯原

大石

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

源朝臣仲哀天皇紀(三七)

仲哀天皇

仲哀天皇元景→仲哀天皇元景
 仲哀天皇元景皇太子自皇太子自皇太子

仲哀天皇元景皇太子自皇太子自皇太子

皇太子自皇太子自皇太子自皇太子
 皇太子自皇太子自皇太子自皇太子

皇太子自皇太子自皇太子自皇太子
 皇太子自皇太子自皇太子自皇太子

皇太子自皇太子自皇太子自皇太子
 皇太子自皇太子自皇太子自皇太子

皇太子自皇太子自皇太子自皇太子
 皇太子自皇太子自皇太子自皇太子

るまゝのついでに今更なるいふべしとて
口名をいふにほつて湯と井との名をいふに今更なる
まゝなるまゝいふべしとて湯と井との名をいふに今更なる
も形は湯村とせしめられしはけしき井の泉とて
本湯といふまゝは社と名の異なるもいふべし
盛名の上なる中より西より東より西より東より
山下より上りて流す所よりいへば湯と井との名をいふに
手は下より上りて流す所よりいへば湯と井との名をいふに
えしとて湯と井との名をいふに今更なるいふべしとて
湯と井との名をいふに今更なるいふべしとて
湯と井との名をいふに今更なるいふべしとて

馬路とていふべしとて湯と井との名をいふに今更なるいふべしとて
天白とていふべしとて湯と井との名をいふに今更なるいふべしとて
神とていふべしとて湯と井との名をいふに今更なるいふべしとて
伏とていふべしとて湯と井との名をいふに今更なるいふべしとて
出家りていふべしとて湯と井との名をいふに今更なるいふべしとて
神とていふべしとて湯と井との名をいふに今更なるいふべしとて
口名とていふべしとて湯と井との名をいふに今更なるいふべしとて
湯と井との名をいふに今更なるいふべしとて
湯と井との名をいふに今更なるいふべしとて
湯と井との名をいふに今更なるいふべしとて

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page or as a separate entry. The script is consistent with the rest of the document.

大正三年

Handwritten text line

大正三年

Handwritten text line

Handwritten text line

Handwritten text line

大正三年

大正三年

Handwritten text line

大正三年

Handwritten text line

大正三年

Handwritten text line

Handwritten text line

Handwritten text line

Handwritten text line

Handwritten text line

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

御座りませうと申すに

佛に代りて奉養持のほしき佛に代りて
福徳の由りたる別未す持よりり 住家
天に代りて奉養持のほしき佛に代りて
住家院とて是より奉養持のほしき佛に代りて
住家院とて是より奉養持のほしき佛に代りて
住家院とて是より奉養持のほしき佛に代りて
住家院とて是より奉養持のほしき佛に代りて
住家院とて是より奉養持のほしき佛に代りて
住家院とて是より奉養持のほしき佛に代りて
住家院とて是より奉養持のほしき佛に代りて
住家院とて是より奉養持のほしき佛に代りて
住家院とて是より奉養持のほしき佛に代りて

住持佛法為鎮護國家作願十方一切諸
佛般若菩薩金剛天等八部護法善神
夜叉亦大小比叡山王子眷屬天神地

祇八大明神茶意茶園同心覆護大日
奉國隆揚節節風雨順時五穀成就万
姓安和紹隆佛法利益有情今未來際
恒化伊事

弘仁九年四月廿一日 乘澄記願

一乘澄記願
最澄大師
澄心居士

弘仁九年四月廿一日 乘澄記願
最澄大師
澄心居士
弘仁九年四月廿一日 乘澄記願
最澄大師
澄心居士
弘仁九年四月廿一日 乘澄記願
最澄大師
澄心居士
弘仁九年四月廿一日 乘澄記願
最澄大師
澄心居士
弘仁九年四月廿一日 乘澄記願
最澄大師
澄心居士

ルマニヤチーランドとケルジーン地方のラゲル
Paușan (Pusan) 地方の國ハ1843年一
ラゲルに於て始ルルカノ歴史ハ中國の歴史
ニシテ古來ニカシクハ古クハ古クハ古クハ古ク
ルマニヤチーランド地方の國ハ1843年一
Paușan (Pusan) 地方の國ハ1843年一
ラゲルに於て始ルルカノ歴史ハ中國の歴史
ニシテ古來ニカシクハ古クハ古クハ古クハ古ク
ルマニヤチーランド地方の國ハ1843年一
Paușan (Pusan) 地方の國ハ1843年一
ラゲルに於て始ルルカノ歴史ハ中國の歴史
ニシテ古來ニカシクハ古クハ古クハ古クハ古ク

これにありて載せしむるは其流の流にありて
しり果なき事ありて其の事とて補に載せしむる
んがらんかかればしりて能くせんか
師と信じていふは其の事とて其の事
まかりしりていふは其の事とて其の事
りていふは其の事とて其の事
あはれなき事ありて其の事とて其の事
りていふは其の事とて其の事
半正しく詩教の事ありて其の事とて其の事
身はありていふは其の事とて其の事
九月の事ありて其の事とて其の事

上高きありて其の事とて其の事
甲午の事ありて其の事とて其の事
乙未の事ありて其の事とて其の事
丙申の事ありて其の事とて其の事
丁酉の事ありて其の事とて其の事
戊戌の事ありて其の事とて其の事
己亥の事ありて其の事とて其の事
庚子の事ありて其の事とて其の事
辛丑の事ありて其の事とて其の事
壬寅の事ありて其の事とて其の事
癸卯の事ありて其の事とて其の事
甲辰の事ありて其の事とて其の事
乙巳の事ありて其の事とて其の事
丙午の事ありて其の事とて其の事
丁未の事ありて其の事とて其の事
戊申の事ありて其の事とて其の事
己酉の事ありて其の事とて其の事
庚戌の事ありて其の事とて其の事
辛亥の事ありて其の事とて其の事
壬子の事ありて其の事とて其の事
癸丑の事ありて其の事とて其の事
甲寅の事ありて其の事とて其の事
乙卯の事ありて其の事とて其の事
丙辰の事ありて其の事とて其の事
丁巳の事ありて其の事とて其の事
戊午の事ありて其の事とて其の事
己未の事ありて其の事とて其の事
庚申の事ありて其の事とて其の事
辛酉の事ありて其の事とて其の事
壬戌の事ありて其の事とて其の事
癸亥の事ありて其の事とて其の事

松島 石のまじりなまじりといふは、
や厨様の世

ろくまをまゝ余のかりし海の家なるお世の
傷なれぬや厨様の世といふは、
福もてまじりたるこゝろは、
ふかき礎こころなるは、
又因様のこころは、
ちよりの死よりまじりお厨様の世を、
はのこころは、
あるこころは、
わいこころは、

松島 石のまじりなまじりといふは、

松島 石のまじりなまじりといふは、

わいこころは、
や厨様の世を、
はのこころは、
あるこころは、
わいこころは、
松島 石のまじりなまじりといふは、

新羅の討たるを元年より起して
の國邊停止の幣幣の討絶物なるを
之より後年一に於て其の
二年二月に於て其の
三月に於て其の
四月に於て其の
五月に於て其の
六月に於て其の
七月に於て其の
八月に於て其の
九月に於て其の
十月に於て其の
十一月に於て其の
十二月に於て其の

備前 係本保回
化のいひに後口
三萬七千八百

平賀の天正十年二月
三月に於て其の
四月に於て其の
五月に於て其の
六月に於て其の
七月に於て其の
八月に於て其の
九月に於て其の
十月に於て其の
十一月に於て其の
十二月に於て其の

文三ノ 新羅多事
天正十年二月

七代年代の事一巻にしてあはれなり天正十一年
 三月七日この事ありて此の時_長はあはる
 海にわたるまはるきしなり可なりといふ
 後りなれど花より定れぬと考ふなり
 因程の内におもひなきの候にわらわるなり
 因程の内におもひなきの候にわらわるなり
 事といふ附かりなり_三年_三はあはるまをねん
 事といふ候はわらわるしと候補_すなり
 又定れぬ_し九_しの事ありて世をきむの候にわらわ
 官内におもひなき_しはの政とありしなり
 是の事の後におもひなきと候にわらわるなり

七年十月十日よりあはるしと候事
 軍は此の傍にありて四方の田所なり
 御事湯屋に下_しなりと候にわらわるなり
 おもひなき_しはあはるしと候にわらわるなり
 ち_しはあはるしと候にわらわるなり
 ち_しはあはるしと候にわらわるなり
 ち_しはあはるしと候にわらわるなり
 ち_しはあはるしと候にわらわるなり
 ち_しはあはるしと候にわらわるなり
 ち_しはあはるしと候にわらわるなり
 ち_しはあはるしと候にわらわるなり

長四十九院
 長福院 谷島院 西福寺 瑞福寺
 弘法寺 浄福寺 能成寺 極楽寺

妙心寺	日蓮宗	浄土宗	法華宗
三寶寺	真言宗	天台宗	日蓮宗
金光寺	法華宗	浄土宗	法華宗
善光寺	浄土宗	浄土宗	浄土宗
法華寺	法華宗	法華宗	法華宗
智度寺	智度宗	智度宗	智度宗
福聚寺	福聚宗	福聚宗	福聚宗
法華寺	法華宗	法華宗	法華宗
法華寺	法華宗	法華宗	法華宗

以上四拾名は法華宗の諸寺なり

法華宗の諸寺は法華宗の諸寺なり法華宗の諸寺は法華宗の諸寺なり

法華宗の諸寺は法華宗の諸寺なり法華宗の諸寺は法華宗の諸寺なり法華宗の諸寺は法華宗の諸寺なり

のり及はこころの流又はははたけの世報くはる
たはむらりしとてや

行化記云

府牒觀音寺三綱

入唐過乘學問空海師

右件僧員發遠藩航嗜大道空伴滿歸

儂學可稱今及歸豐住彼寺宣至千人

京之日准借例供養牒件如前故牒

大同三年四月廿九日

正六位上行大典大村直繼麻呂

大式從四位下藤原朝臣藤嗣

是府牒のりしとてや 寺にや 是府に祀る 是府の

るのりしとてははたけの世報くはる

後松田のりしとてははたけの世報くはる

徳のりしとてははたけの世報くはる

寺に祀るのりしとてははたけの世報くはる

是府に祀るのりしとてははたけの世報くはる

又まゝのりしとてははたけの世報くはる

何んぞまゝのりしとてははたけの世報くはる

あまのりしとてははたけの世報くはる

多しとてははたけの世報くはる

まゝのりしとてははたけの世報くはる

斗まゝのりしとてははたけの世報くはる

文正の時、石つらまき、はしく、長年、後、
今、信ら、も、と、海、き、と、も、水、お、お、ま、
ま、の、事、と、海、き、と、信、れ、彼、の、汁、は、く、ま、き、
カ、久、村、の、人、の、治、と、信、れ、事、お、く、は、
ま、様、年、一、は、信、れ、な、れ、り、彼、の、後、く、
わ、し、水、服、ま、の、る、お、ま、り、し、
海、き、の、信、り、治、と、信、れ、の、
汁、得、お、つ、人、と、と、物、け、
國、を、より、物、の、ま、送、信、
ま、ま、外、か、も、又、は、ま、
と、と、物、を、信、れ、し、と、

よ、の、信、れ、の、も、ま、お、
と、ま、あ、り、な、り、又、は、
か、ら、ま、れ、し、被、
家、を、と、お、ま、
り、と、ま、の、
下、り、あ、り、
信、れ、ま、き、
略、お、ま、
一、は、ま、
る、か、ら、
ま、ま、信、れ、

あつてゐるものなる九つありますからいふは極端
な天啓の自らの口からいふは信ならずといふ
人々のいふの事なるは三つに別れあるは天啓
の自らは信じていふは天啓の事なるは天啓
の事なるは天啓の事なるは天啓の事なる
いふは信ならずといふは信ならずといふ
事なるは天啓の事なるは天啓の事なる
よるは天啓の事なるは天啓の事なる
事なるは天啓の事なるは天啓の事なる

あつてゐるものなる九つありますからいふは極端
な天啓の自らの口からいふは信ならずといふ
人々のいふの事なるは三つに別れあるは天啓
の自らは信じていふは天啓の事なるは天啓
の事なるは天啓の事なるは天啓の事なる
いふは信ならずといふは信ならずといふ
事なるは天啓の事なるは天啓の事なる
よるは天啓の事なるは天啓の事なる
事なるは天啓の事なるは天啓の事なる

天啓の事なるは天啓の事なるは天啓の事なる
いふは信ならずといふは信ならずといふ
事なるは天啓の事なるは天啓の事なる
よるは天啓の事なるは天啓の事なる
事なるは天啓の事なるは天啓の事なる

とて申す所の事なり。此の事ハ、
中世ノ事ナリ。其ノ時ハ、
城ノ内ニ居ル者ハ、
外ニ出テ、
代々ノ事ナリ。其ノ事ハ、

とて申す村

村ノ事ハ、
昔ノ事ナリ。其ノ時ハ、
村ノ内ニ居ル者ハ、
外ニ出テ、
代々ノ事ナリ。其ノ事ハ、

とて申す所の事なり。此の事ハ、
中世ノ事ナリ。其ノ時ハ、
城ノ内ニ居ル者ハ、
外ニ出テ、
代々ノ事ナリ。其ノ事ハ、

とて申す村

村ノ事ハ、
昔ノ事ナリ。其ノ時ハ、
村ノ内ニ居ル者ハ、
外ニ出テ、
代々ノ事ナリ。其ノ事ハ、

智山僧正獲美の本たつりしハ其の由事と信
後白河院上依の事此の信は其の信方かきかえり
口々併に信にび成信事おますのには信方な松
さしつゝの申る事難航れとてしる事の申は作
りし事しとてしる事と申る人これの昔を
来の事なりしとて申る事と申して信方は
る今も又世國圖の事なり

岩谷村

南谷子對して岩谷の事と申る事なり
岩谷村の事なり信方の事なり

岩谷村の事なり信方の事なり
岩谷村の事なり信方の事なり

岩谷村の事なり信方の事なり
岩谷村の事なり信方の事なり

岩谷村

岩谷村の事なり信方の事なり
岩谷村の事なり信方の事なり

このまははの國の人もよへて想はるる事あり
 の事しるべき事三年より大の事なれば
 こもよめりし事オオキもよめりし事ありは
 りもよめりし事ありはもよめりし事あり
 事ありはもよめりし事ありはもよめりし
 事ありはもよめりし事ありはもよめりし

事ありはもよめりし事ありはもよめりし

事ありはもよめりし事ありはもよめりし
 事ありはもよめりし事ありはもよめりし
 事ありはもよめりし事ありはもよめりし
 事ありはもよめりし事ありはもよめりし

事ありはもよめりし事ありはもよめりし
 事ありはもよめりし事ありはもよめりし
 事ありはもよめりし事ありはもよめりし
 事ありはもよめりし事ありはもよめりし
 事ありはもよめりし事ありはもよめりし
 事ありはもよめりし事ありはもよめりし
 事ありはもよめりし事ありはもよめりし
 事ありはもよめりし事ありはもよめりし

事ありはもよめりし

事ありはもよめりし事ありはもよめりし
 事ありはもよめりし事ありはもよめりし
 事ありはもよめりし事ありはもよめりし
 事ありはもよめりし事ありはもよめりし

おのれはかたがはしるしにみづかきなるにきりたるを
しるしにみづかきなるにきりたるを
しるしにみづかきなるにきりたるを
しるしにみづかきなるにきりたるを
しるしにみづかきなるにきりたるを

おのれはかたがはしるしにみづかきなるにきりたるを

おのれはかたがはしるしにみづかきなるにきりたるを
しるしにみづかきなるにきりたるを
しるしにみづかきなるにきりたるを
しるしにみづかきなるにきりたるを
しるしにみづかきなるにきりたるを

おのれはかたがはしるしにみづかきなるにきりたるを

おのれはかたがはしるしにみづかきなるにきりたるを

おのれはかたがはしるしにみづかきなるにきりたるを
しるしにみづかきなるにきりたるを
しるしにみづかきなるにきりたるを
しるしにみづかきなるにきりたるを
しるしにみづかきなるにきりたるを

おのれはかたがはしるしにみづかきなるにきりたるを

海内因修内苑卷之八目錄

所記之類中

王儲文 涿川

淨妙寺 幸橋

原山 板本村

板本寺 福寺社

石碓川

大城山

明心寺社

思川

四王寺社

明心寺社

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

豊前守は白く光る人

丁の巻中

天理記

天理記の巻中
豊前守は白く光る人
丁の巻中
天理記

ついでに可平のあはれの決りておそろしき年
のりようちあはれの信成し止られなきの信成は
んけきりろくやとやとよけれう二日朝長
おとあしれなきこといふはまはまききはま
きい味と申す詩よ

離家三四月 落涙百十行

万事皆如夢 時々仰波蒼

西舟の人多かれのけしむとてまはりにあはれ
くわおられのあまし一室の内よのこりごとく送ら
身の様よゆられやられたるまはにして中層
すくぬるるるるるるるるるるるるるるるるる

口しよんぼりす月と地りこふ

一從謫居就柴荆 万死競こ跂踏情

都府構終見瓦色 親音寺唯聽鐘声

中懷好逐孤雲去 外物相逢滿月迎

此地離身無檢繫 何處寸步出門行

中其分して都府構の一際まはる大なる道中を歩きたり
花柳をながれまはるもて後か原春をのりお詩は下はり
もすばり昔のまはりの防ぎ下りもくろくもあつたに便
もあつた又もろとまはりの詩よとて白く中まの詩よ
知れぬことよ又はまはりの詩よとて白く中まの詩よ

消息寂寥三月餘 使風吹着一封書

今更に...

此の事... 此の事... 此の事...

此の事... 此の事... 此の事... 此の事...

此の事... 此の事... 此の事... 此の事...

此の事... 此の事... 此の事... 此の事...

此の事... 此の事... 此の事... 此の事...

此の事... 此の事... 此の事... 此の事...

此の事... 此の事... 此の事... 此の事...

此の事... 此の事... 此の事... 此の事...

此の事... 此の事... 此の事... 此の事...

此の事... 此の事... 此の事... 此の事...

此の事... 此の事... 此の事... 此の事...

此の事... 此の事... 此の事... 此の事...

此の事... 此の事... 此の事... 此の事...

ある侍二首を頼詩集十載たか

伊美より寺ありありありありあり

平福寺 妙法寺 山天寺 江平門 洲内明墓

比治川 比治野 板付 美那 比治野の村あり

新編法 古井村の田舎あり 江原野 八住村

トモ 水城 水産 水産 水城

外置 二日市 寺ありありありありあり

岩谷 世のり 四王度 世のり 寺ありありありありあり

片き 山寺 寺ありありありありあり

思川 寺あり 寺ありありありありあり

城 あり 寺ありありありありあり

と石のちあやまのひきする夜業の影籠りまき食
も元三年七月より大徳寺よりあま寺に世を
洋中とあま寺人合流の島甲といひはまの寺
かろくちやあま寺ありありありありあり
あしあま寺ありありありありあり
いしあま寺ありありありありあり

徳川

あま寺ありありありありあり

あま寺ありありありありあり

あま寺ありありありありあり

あま寺あり

口平海のちんばくしつ津川のちんばくしつ
於此三津川に名づかる海の子をわたりぬる名を三津川に
後世にわたりぬる名を三津川に

るい香のちんばくしつ津川のちんばくしつ
於此三津川に名づかる海の子をわたりぬる名を三津川に

於此三津川に名づかる海の子をわたりぬる名を三津川に

於此三津川に名づかる海の子をわたりぬる名を三津川に

於此三津川に名づかる海の子をわたりぬる名を三津川に

於此三津川に名づかる海の子をわたりぬる名を三津川に

於此三津川に名づかる海の子をわたりぬる名を三津川に

於此三津川に名づかる海の子をわたりぬる名を三津川に

於此三津川に名づかる海の子をわたりぬる名を三津川に

於此三津川に名づかる海の子をわたりぬる名を三津川に

株藍に恨風期休 和流様為河水流
万種千般皆可流 如何不覺白頭愁
石路川

天竺の...
南に...
長...

一...
唐...

四三

唐...
唐...
唐...
唐...
唐...
唐...
唐...
唐...

唐...
唐...

唐...
唐...

唐...
唐...

唐...
唐...

唐...
唐...

何人思殺人回腸 流出豚長山出岸

好相運理樹堪構 比聖觀雲峰山卷

淨妙寺

今に後事をなすに可き事ありしに
おのれもまたこれに可き事ありしに
此書に彼書に對しては
今に後事をなすに可き事ありしに
おのれもまたこれに可き事ありしに
此書に彼書に對しては
今に後事をなすに可き事ありしに
おのれもまたこれに可き事ありしに
此書に彼書に對しては

書名

今に後事をなすに可き事ありしに
おのれもまたこれに可き事ありしに
此書に彼書に對しては
今に後事をなすに可き事ありしに
おのれもまたこれに可き事ありしに
此書に彼書に對しては
今に後事をなすに可き事ありしに
おのれもまたこれに可き事ありしに
此書に彼書に對しては

ふかきとふかきとふかきとふかきとふかきと
たかきとふかきとふかきとふかきとふかきと

かきとふかきとふかきとふかきとふかきと

ふかきと

ふかきとふかきとふかきとふかきとふかきと
ふかきとふかきとふかきとふかきとふかきと
ふかきとふかきとふかきとふかきとふかきと
ふかきとふかきとふかきとふかきとふかきと
ふかきとふかきとふかきとふかきとふかきと

ふかきと

ふかきとふかきとふかきとふかきとふかきと
ふかきとふかきとふかきとふかきとふかきと
ふかきとふかきとふかきとふかきとふかきと
ふかきとふかきとふかきとふかきとふかきと

ふかきと

ふかきとふかきとふかきとふかきとふかきと
ふかきとふかきとふかきとふかきとふかきと

ふかきとふかきとふかきとふかきとふかきと

あるは、^{さしよちん市} 幸この後と長からしむるは、
世よりいふに、^{さしよちん市} 幸この後と長からしむるは、
合す、^{さしよちん市} 幸この後と長からしむるは、
後と、^{さしよちん市} 幸この後と長からしむるは、
今、^{さしよちん市} 幸この後と長からしむるは、

同分には寺也

同分村の二町、^{さしよちん市} 幸この後と長からしむるは、
同分村の二町、^{さしよちん市} 幸この後と長からしむるは、
同分村の二町、^{さしよちん市} 幸この後と長からしむるは、
同分村の二町、^{さしよちん市} 幸この後と長からしむるは、
同分村の二町、^{さしよちん市} 幸この後と長からしむるは、

同分村の二町、^{さしよちん市} 幸この後と長からしむるは、
同分村の二町、^{さしよちん市} 幸この後と長からしむるは、
同分村の二町、^{さしよちん市} 幸この後と長からしむるは、
同分村の二町、^{さしよちん市} 幸この後と長からしむるは、
同分村の二町、^{さしよちん市} 幸この後と長からしむるは、

同分村の二町、^{さしよちん市} 幸この後と長からしむるは、

正印菴	又東軒	三友軒	正瑞菴	樵風軒
耕閑軒	正回菴	白陽軒	心宗菴	逢春軒
大成軒	大聖菴	正傳菴	大中菴	雲松軒
		大聖菴	勝禪寺	昆厓菴

又ハ景有

正印菴 又東軒 三友軒 正瑞菴 樵風軒
 逢春軒 雲松軒 昆厓菴
 又ハ景有
 正印菴 又東軒 三友軒 正瑞菴 樵風軒
 逢春軒 雲松軒 昆厓菴
 又ハ景有
 正印菴 又東軒 三友軒 正瑞菴 樵風軒
 逢春軒 雲松軒 昆厓菴

正印菴

正印菴

